

# スライド作成のABC

医学生・初期研修医が研究発表、学会発表、勉強会などに参加するに当たって避けて通れないのがスライド作成です。見やすく、わかりやすいスライドを作るには、どうすれば良いのでしょうか？  
初心者でも修得できる“一生モノ”のエッセンスを本連載で学びましょう！

## Lesson 07 発表用スライドと配布用スライドの違い

柿崎真沙子 名古屋市立大学大学院医学研究科医学・医療教育学分野 講師

学会発表やセミナー講演などでスライドを使うことは今や当たり前になっていますが、発表だけではなく、講義の説明用や配付資料としてもスライドを使用することがあります。今回は特に配布用のスライドについて取り上げたいと思います。

### データ、印刷どちらで配布する？

配付資料としてスライドを配る際、スライドデータそのものを配布するのか、印刷して配布するのか、さまざまな場合があると思います。

最近では電子ファイルの受け渡しの技術が進歩しているので、比較的大きなファイルサイズであっても送付が可能になっており、スライドデータそのものを資料として配付することも増えているかと思えます。一方で、印刷配布という方法もまだ根強く残っており、その場合1枚のA4用紙にスライドを印刷してしまうと分量が多くなるため、2~6スライドを並べて資料を作成し、配布することもあるでしょう。後者はファイルからエクスポートを選択し、PDFの作成から保存する方法や、印刷機能の出力形式をPDFにし、プリンターのプロパティからシートごとのページ数の設定などを行う、などいくつかの方法があります。

その時々によってデータと印刷、どちらが適しているのかは変わりますが、私は印刷の場合は大体A4用紙にスライドが2枚配置されている資料を作成し、配付することが多いです。データで配布する場合もそのままA4で印刷できるので、こちらの形式を使用しています。第3回「スライドの背景とフォント」でも取り上げましたが、サイズはワイドよりは3:4のほうが収まりが良いのでお勧めです。また、スライドデータそのものを資料として配付する場合も、OSの違いなどで配置のずれが生じるので、PDF化して配布することをお勧めします。

### 配布時は動画やアニメーションに注意

発表用のスライドをそのまま配付資料として使う場合は多いかと思いますが、スライドに動画や強調、挿入アニメーションなどを入れている時は、印刷配布やPDFデータとして配布する場合に注意が必要です。

まずは動画の場合の対策です。動画はPDFや印刷配付資料に載せられません。そのため、①動画のスクリーンショットを掲載して印刷し、動画として

の資料配付はなしにする、②クラウドサービスや動画サイトに動画をアップロードしておいて、配付資料の該当スライドにURLやQRコードを貼り付ける、③Wordなどに動画のURLやQRコードを添付して、別ファイルとして送付する、といった対応が必要になります。動画データをPPTファイルに埋め込んで共有することも可能ですが、データ量が大きくなりすぎるとメール添付でははじかれてしまうことも多いので気をつけましょう。

見落としがちなのは強調や挿入アニメーションを使ったスライドを使用している場合です。例えば1枚のスライドで挿入アニメーションを使って元々のスライドの上から図を載せている場合、印刷されるのはアニメーション後のスライドになってしまい、下にどのようなスライドがあったのかわからなくなります。解決策として、①2枚のスライドに分けて作り、図を載せる前のものと後のものを両方配布する、②そもそも図が重ならないように強調して1枚にする、といった変更が必要になります。変更が面倒なので、私はなるべく上に図が重ならないようなスライドを作るようにしています。

### 学会発表用を配布用にも流用できるように

基本的に学会発表で使用するスライドは、印刷配布を前提としていないので、アニメーションも動画も好きなだけ挿入することができます。しかし、セミナーや講義など、学会発表で使用するスライドと同様のものを資料として配付する場合、先ほど触れた動画の有無や図の重なりといった点に注意が必要です。また、1枚のスライドにぎざぎざに文字が詰め込まれているスライドだと読みにくくなる一方で、トピックタイトルだけの提示ばかりで説明文がほとんどないなど、あまりに情報量が少ないスライドだと資料としても適切ではなくなってしまうため、スライド1枚当たりに含まれる内容が適切な情報量であるかという点が重要になってきます。

「じゃあ発表用と配布用は別々に作れば良いのでは？」と思うかもしれませんが、段々仕事が忙しくなると、別々に作る時間がなくなってしまうのは多くの方々も経験がしているのではないのでしょうか？

ということで、基本的には学会発表などの段階から、スライドそのものは「印刷して資料配付しても大丈夫」なスライドとして意識して作成すると、そ

のまま授業やセミナーに流用でき、配付資料としても使え、効率が良いと思います。

### 効率的な配付用資料の作り方

忙しくなると発表用と配布用のスライドを別々に作っている暇がなくなる……と述べましたが、実は私は配付用資料と講義用資料を別のファイルにしています。というのも、講義では計算問題などを解かせるため、回答と一緒に配布してしまうと講義が成り立たなくなってしまうからです。しかし、別々のファイルを作るとは言い、スライドそのものを別々に作っているわけではありません。まずは回答なども全て入れた講義用のスライドを作って保存してから、同じファイルをコピーし、配布用にファイル名を変え、回答スライドだけを削除するようにしています。回答については授業後配布するため、また講義用ファイルをコピーし、今度は回答部分以外を全て消去して回答用の配付資料を作ります。つまり、配付用資料は別に作りますが、単純に配布に向かないと思ったスライドだけを削除することで労力を削減しています。

### 印刷配布時は白黒印刷OKなデザインに

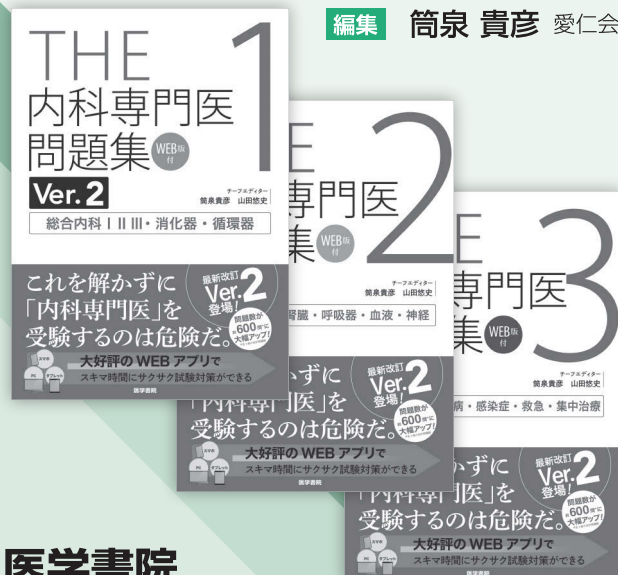
今までの各回では、なるべくシンプルなスライドになるように説明してきたつもりです。デザイン性の高いスライドは、プレゼンする場合は良いのですが、いざ配付資料として使おうとした場合、印刷がしにくいからです。また、潤沢に費用がある組織での講演ではカラーで画素の良い印刷配付資料を作っていたとしても、大学の講義などでは経費の関係で「配付資料は白黒印刷です」といったことも多く、あまり凝ったデザインのスライドを作ってしまうと配付資料としては見づらいものになってしまうからです。

白黒で資料を印刷する場合、写真や凝った図表はせっかくスライドに入れたのに潰れてしまい、見にくくなるのがしばしばあります。白黒にしても強調部分がわかるようにするために、なるべく写真を減らしたり、色だけで強調がわかるようにするのはなく、太字やアンダーラインを使用したりすると良いでしょう(連載第3回参照)。

内科専門医受験に大好評の臨床問題集が3巻本にパワーアップして新登場！ 2月刊行開始！

# THE 内科専門医問題集 Ver.2 WEB版付

編集 筒泉 貴彦 愛仁会高槻病院総合内科 山田 悠史 マウントサイナイ医科大学老年医学・緩和医療科



1 総合内科 I II III・消化器・循環器  
B5 頁422 定価：7,480円(本体6,800円+税10%)  
[ISBN 978-4-260-05095-1]

2 内分泌・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経  
B5 頁458 定価：7,480円(本体6,800円+税10%)  
[ISBN 978-4-260-05096-8]

3 アレルギー・膠原病・感染症・救急・集中治療  
B5 定価：7,480円(本体6,800円+税10%)  
[ISBN 978-4-260-05097-5]

- ▶エディターチームが専門医カリキュラムから内科専門医試験必出のトピックを厳選!
- ▶内科専門医試験全体の約60%を占める臨床問題対策の最強ツール、待望の第2弾!



リニューアルして3月開講!

内科系専門医試験対策のためのオンライン問題集



要望に応え最新収載問題数を大幅にUP

医学書院